



はたや記念館 ゆめおーれ勝山 オープン

開館記念式典が盛大に

7月18日、はたや記念館ゆめおーれ勝山がオープンし、小雨の降る中、関係者約200人が参加し、記念式典が執り行われました。山岸市長は、「まちなか散策の起点となる施設が完成しました。中心市街地のシンボルとして

懐かしさを感じる

織機が織りなす歴史の足跡

観光客を呼び込みたい。」と力強くあいさつ。ゆめおーれ勝山の命名者である中山善富さん(名古屋千種区)に、感謝状が贈呈されました。

その後、来賓や市内各小学校の児童代表が、テープカットとくす玉割りをして、ケイター保育園児20人が風船を飛ばして、開館を祝いました。

機屋の雰囲気そのままに

ゆめおーれ勝山の前身は「機屋」と呼ばれる約100年前に建設された織

物工場です。その操業当初からあった

正面玄関をくぐり、事務所の横を抜けると、廊下の右手に操業当時の従業員の名前が書かれた下駄箱が並んでいます。その向かいの引き戸の中には傘立が、さらに進むと宿直室も残っています。耐震補強はしてあるものの、梁や柱も当時のままの材料が使われ、機屋の雰囲気を感ずることが出来ます。ガッシャン、カタン、ガッシャン、カタン……

館内に響いている懐かしく乾いた音は、実際に動かしている昭和25年製の

半木製織機から聞こえてきます。実際にこのような古い織機で布を織る工程を見ることが出来るのは、国内でも珍しく、他にも鉄製の織機なども展示されています。

2階のミュージアムゾーン(有料)では、木枠に糸を巻き取る「糸繰機」や縦糸をそろえる「整経機」、糸にひねりを加える「撚糸機」など、今では珍しい木製の機械などを展示しています。また、糸から織物に



- ①来賓や関係者によるテープカットとくす玉割り
- ②オープンには多くのかたが訪れました
- ③ゆめおーれ広場にある小川では子どもたちが大はしゃぎ
- ④イベントの一環として行われた「谷のはやし込み行列」
- ⑤20日には、福井県出身の横田はるなさんと勝山市出身の証さんによるミニコンサートが開かれました
- ⑥ゆめおーれ広場で開催されたワンコイン元気フェアにはたくさんの来場者がありました
- ⑦ステージで行われた演奏に聞き入る来場者
- ⑧ゆめおーれ内に併設されたショップコーナー
- ⑨カフェコーナー「エグエグ」では飲み物やシュークリームなどが大人気

なるまでの工程を、パネルと実際使われていた道具で分かりやすく紹介したり、勝山市の繊維産業の歴史をパネルや映像で紹介したりしています。

他にも、ホールや売店、カフェを併設しており、さまざまなイベントを開催し、地元の特産品などを販売しています。



ゆめおーれ周辺を 花いっぱい

ゆめおーれ勝山オープンに合わせ、7月3日、「サンブラザ青年部」が、ケイター保育園の園児と、わがまち元気発展事業の取り組みとして、花壇に花苗を植えました。7月5日、6日には、元禄線の植樹樹に地元地区と通り沿いの商店等の皆さんが共同で、季節の花苗を植えました。



ゆめおーれ勝山の命名者
中山善富さん
(名古屋)

「すごく整った良い施設ですね。機織り体験など親子で楽しめるコーナーもあって、娘も喜んでいました。受け身でなく、自分で参加できる、このような施設の名前を付けることができて良かったです。今後も親しみやすく身近な施設であってほしいと思います。」